



2015年4月27日

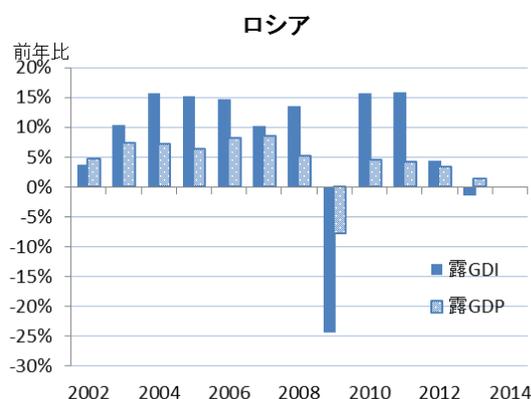
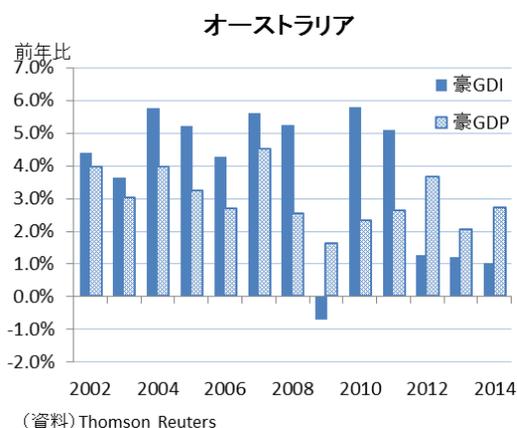
資源国経済を見る眼

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 上席研究員 森川 央

2000年代に入り、資源価格は歴史的な高騰をし、それが資源産出国を大いに潤した。しかし中国経済の減速が囁かれた2012年付近をピークに資源価格は低下。そして昨年後半は原油価格が急落、多くの資源価格も大きく下落した。結果、資源国の景気は悪化しているのであるが、通常、景気を計るモノサシとして用いられる実質GDP成長率では景気悪化の程度を見誤ることがあるので注意が必要だ。

ミスジャッジの原因は、実質GDPが交易利得(損失)を反映していないことである。交易利得とは、交易条件が変化することによって生じる実質購買力(実質所得)の海外からの流入である。¹ 輸出量が一定のまま、輸出価格が半値になったとしよう。輸出売上(所得)は半分になるが、実質GDPは変わらない。価格は基準年価格で一定だからである。そこで、実質GDPに交易利得の変化を加えたものが実質GDI(国内総所得)である。こちらのほうが景気の実態を反映している。

実際の統計をみてみよう。オーストラリアは、鉄鉱石や農産物などの輸出が盛んだ。2002年から2011年までの10年間、リーマンショックの影響を受けた2009年を除き、実質GDIは実質GDPを上回る伸びを記録していた。この間のオーストラリアはGDPが示す以上の好景気だったのである。



¹ 正確には例えば <http://www.hitachi-hri.com/research/keyword/k44.html> を参照のこと。

しかし、2012年からは実質 GDI の伸び率が GDP のそれを下回っている。2014 年は、実質 GDP は 2.7%増加しているが GDI は 1.0%増に留まっている。

もっとわかりやすいのがロシアだ。ロシアはエネルギー（石油・天然ガス）輸出への依存度が高い。2000 年代に入ってからロシアの実質 GDI は 15%も増加していた年が 5 回もあった。歴史的な高成長期だったといえよう。

しかし、2012 年の実質 GDI の伸び率は 4.4%、2013 年は-1.5%へ急降下。まだ発表されていないが 2014 年は、ルーブルの下落も手伝い大幅なマイナスになっているだろう。2015 年は 2009 年に匹敵する悪化になるかもしれない。資源国の景気を正確に「診断」する眼が問われる一年である。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。